

大阪府保育士会だより

平成24年5月1日

第90号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001

# ほほえみ

## 子どもの笑顔のために保育士も笑顔で

高田会長あいさつ



高田テルミ会長

春です!!入学式を終えた卒園児たちが真新しい制服で園に走り込んできました。24年度のスタートです。

何とか会長としての大役を皆様の御支援と御協力に支えられ2年目を迎えることができました。

幼保一体化を含む「子ども・子育て新システム」に関する基本制度のとりまとめ」が示され、3月の少子化社会対策会議において決定、今年度はその関係法案の整備と共に、「子ども指針(仮称)」「総合子ども園保

### 質の向上に役立つ研修

#### 災害時の危機管理を

育要領(仮称)「保育教諭(仮称)」などに関する具体的な検討が進められることとなりました。どうか皆様も今後の国の動きに注目していただきたいと思います。

さて私たち保育士集団は保育所における子ども一人ひとりの豊かな育ちを支えるべく、発達過程を踏まえ

保育環境を通し、養護と教育を一体的に展開する保育はもとより、地域・社会に向けても在宅の子育て家庭への支援を行っていることと思います。その保育や支援など、保育士としての質の向上のために、皆様のお役に立つ研修を企画してまいります。

また、全国保育士会は今年度の事業の柱を、①子どもが豊かに育つ新たな環境構成への取り組み②保育の質の向上③子育て・子育て文化の創造④保育士会組織の強化、の4つとし、活動を進めていきます。さらに、私たちは東日本大震災の被災地の保育士などへの継続した支援とともに、改めて災害発生時における保育所の子どもの安全確保・保護

者対応・地域との連携など危機管理・安全管理の強化についても今一度確認しなければいけないと思います。さあ、すべての子どもが笑顔で過ごせるために、課題を把握し、研鑽に努めつつ私たち保育士が笑顔で保育しましょう。この一年どうぞよろしくお願ひ致します。

### 連携し育てる絆



大阪狭山市の保育園は教育委員会に属し、保幼小中の連携強化が図られています。4・5歳児は毎年、中学校の体育祭に参加します。写真でご覧のように、この日は体育の授業に飛び入り参加。優しいお兄ちゃん、お姉ちゃんとボールの投げ合いをしたり、抱っこをしてみらって園児たちは大喜び。園児たちはお兄ちゃん、お姉ちゃんが大好きになります。この関わりを通じて、幼い子どもたちを地域で温



かく見守る絆が育つてくれればと願っています。(大阪狭山市 つばみ保育園)

### 発達不安を解消



「下田部保育園子育て支援事業」を展開しています。保健所から1歳半健診で発達支援や保護者支援の必要な方が紹介されると、法人内の心理職やスマイルサポーターが担当し、親子で遊んだり、少人数の集団遊びや保護者同士、在園児との交流を進めます。「みんなと交流したり相談に乗ってもらおうことで、言葉や精神面での発達不安、子育ての難しさなどが解消され、子どもも安定してきました」との声が聞かれました。



す。今後も楽しく、相談にも乗ってもらえるという、そんな場として支援を継続したいと思っています(高槻市 聖ヨハネ学園 付属下田部保育園)

### 地域と共に関わりたい大切な



# 分かりやすく話し 聞き上手になろう

## 記念講演で大島氏

24年度  
保育士会総会に  
200人超参加

24年度保育士総会が4月21日、2000人を超える保育士が参加し社会福祉指導センターで開催されました。はじめに、参加者全員で

全国保育士会倫理綱領が読み上げられ、引き続き総会議事に入り、23年度事業報告および収支決算、24年度事業計画案と収支予算案がそれぞれ承認されました。

第二部では「コミュニケーション再考もつと分かり合うために」をテーマに、東京工芸大学芸術学部准教授、大島武氏の記念講演が行なわれ、子どもとのコミュニケーションではなく、職場内での職員間や園長と職員の大人同士のコミュニケーション、さらに保護者との関係について分かりやすく説明されました。

大島氏はそのなかで「コミュニケーションは誤解の連続であることを前提に、そのズレを少しでも減らす努力が必要」と指摘。「分かりやすく」話すための要件として①大枠から話す②具体的に話す③話しを構造



平成24年度  
大阪府保育士会事業計画

4月21日  
平成24年度総会

「コミュニケーション再考もつと分かり合うために」  
講師 大島武氏

6月25日  
保育士研修会

「乳児保育における子どもの育ちのとらえ方と保育のしかた」  
講師 松本勝信氏

7月13・14日

近畿ブロック保育研究会  
会（奈良県奈良市）

7月31・8月8日・8月中旬（3日間）

保育士の専門性を高める  
連続研修会（園長・リーダー・主任保育士研修会）  
9月11日  
保育士研修会

「絵画で感じる子どもの  
こころ（仮題）」  
講師 舟井賀世子氏

10月18日・19日  
全国保育士会研究大会

（鳥取県 鳥取市）

11月13日  
保育士研修会

「保育士のメンタルヘルス（仮題）」  
講師 増田知乃氏

11月14日～16日  
全国保育研究大会（沖縄 県宜野湾市）  
2月  
保育士研修会

「子どもの遊びと環境（仮題）」  
講師 樋口春香氏

全国保育士研修会

第38回全国保育士研修会  
が2月20、21の両日、横浜市のパシフィコ横浜で開催されました。

初日は厚生労働省雇用均等・児童課程局保育課長、橋本泰宏氏の「保育をめぐる国の動向と課題」と題する行政説明のあと、「子ども・子育て新システムと保育について考える」をテーマにシンポジウムが行われました。パネリストの汐見稔幸（白梅学園大学学長）、竹下美穂（保育園を考える親の会）、榎原智子（読売新聞記者）、上村初美（全国保育士会会長）各氏が新システムの子ども・子育てをめぐる環境変化や課題につ

いて意見を交わされました。シンポジウムでは、汐見稔幸氏と竹下美穂氏が「子どもを保育園に通わせてみて感じることは、保育園でどのように保育されているのかわからないこと。6年間、養護と教育をきちんとされているのはわかるが、具体的な何を実践されているのかをもつとアピールし、保育の内容を伝えていくべきだ」と述べられたのがたいへん印象的でした。自分たちが行っていることにもつと自信を持ち、保護者だけでなく、地域にも発信していく大切さを改めて感じさせられました。また、昨年の東日本大震災で被災された岩手、宮城、福島各県の保育士から震災時の対応、保育再開までの経緯と現状、今後の保育課題について報告されました。2日目は4分科会に分かれたコース別研修が行われ、全国から約470名、大阪から14名が参加。今後より一層の保育の充実を図るため、新システムの動向にもしっかりと目配りを心がけたいものです。

（柏原市 国分保育園）

## もっとアピールを!! 保育の実践内容を 保護者、地域へ

### — 第38回全国保育士研修会 —

めぐる環境変化や課題につ



学びシリーズ②①

子どもの発達に即した保育について ③

大阪総合保育大学

大方美香 教授



子どもの生きる力を考える  
今回は、「子どもの生きる

力とは何か」という根源的  
なことを考えてみましょう。

生きる力として、まず0歳

児は、①生物体・生命体と  
して生きている側面と②社

会的に生きている側面の2  
つがあると考えられます。

まず、①生物体・生命体  
として生きている側面は、

子どもは生物体として生き  
ているということ、他の

動物と同じではないという  
ことです。0歳の子どもは

五感を持って生まれ、生き  
ている存在です。しかしな

がら、②社会的に生きている  
側面は、生理的早産とい

われるように、人間ははじ  
めから自分では起き上がれ

ないということがあります。

軟体であった胎児が、社会  
的に人にであいい、抱かれな

がら人間として必要な運動  
能力である身体、すなわち

筋力をつけ、自分で自分の  
身体を支えられるようになっ

ていきます。環境を通して  
といわれるように自分自身

で成長していく力を持つて  
いると考えられます。この

0歳の社会的に生きている  
側面を知ることが、他者と

の関係を育てていくうえで  
大きな意味を持つと考えら

れます。

子どもと他者との関係

(一)生理的欲求の満足が社  
会的に生きている証

子どもは、エリクソンや

ヴィゴツキーがいうように、  
大人との信頼・情動が大切

であると考えられます。0

歳の乳児保育においては、  
情動の分化はむしろマスロー

がいう生理的欲求の充足に  
よって可能となります。大

人との社会的関係は生理的  
欲求である不快を充足する

という満足であり、そこに  
は人間が介入する必要があ

ります。「快―不快」は、  
0歳にとつては生理的欲求

の満足という結果であり、  
0歳は生理的欲求を自ら満

足するための力を持つてい  
ることに気づかなければな

らず、ここに、人間との情  
が通い、子どもと他者との

関係という社会的に生きる  
基本的な関係が始まります。

(二)情動の分化は社会的に  
生きている証

情動の分化は、大人との  
情動のやり取りによって生

まれます。もちろん、0歳

児も社会的に生きており、  
情動のやり取りは何よりも

他者との関係において重要

です。子どもは、この人の

オムツの交換が快である、  
この人の抱っこが快である

という特定の大人を選ぶと  
いう主体的な選択を自ら行

う姿があります。情動のや  
り取りは、子どもの生きる

力として重要です。

好きな大人の声をキャッ  
チした0歳児は、身体中を

使った0歳児は、身体中を  
使った0歳児は、身体中を

はしゃぎ」運動は、生理的  
には、快という情動の表出

です。しかしながら、ばた  
ばたと身体を動かして抱っ

こを求める姿に、大人がど  
のように関わるのかは考え

なければならぬ視点です。

大人が子どもをあやす時の  
嬉しそうな姿に0歳は他者

である人への快を求めるこ  
とを覚え、快を求めてばた

ばたとします。保育者は、  
子どもの生きる力をとらえ、

子ども(0歳も含めて)が  
他者との社会的関係を持つ

ていることを捉えることが  
重要です。子ども時代(0

歳)は、むしろ人として誇  
りと自尊心を育てる時期だ

と理解することであり、ど  
のような援助や関わりが

「人を人間らしくする」こ  
とであるかを考えることが

求められます。

―(次回へつづく)―

和泉ひかり保育園では  
「センター型」子育て支援

センターとしての取り組み  
を行っています。

センター型では、地域の  
親子が集える専用の部屋を

設け①親子教室②サークル  
活動の支援③親子が気軽に

集まれる場所の提供(部屋  
貸し)④園庭開放⑤

出前保育⑥育児相談  
⑦子育て講習会など

様々な角度から、毎  
日利用してもらえ

る支援活動を展開。子  
育てをする親子の健

やかな生活のお手伝  
いをしています。

なかでも一番人気  
は親子教室です。赤

ちゃんを持つお母さ  
んたちは日々子育て

に追われ、時間があつ  
という間に流れてい

てしまいがち。そん  
なお母さんたちが親子教室

やセンターでの活動に通う  
ことで生活に「張り」が出

たと喜んでもらっています。  
季節に合わせた行事が豊

富なのも特色です。これか  
らの暖かい時期には色水遊

びや小麦粉粘土、大きな紙  
に思いっきり描くお絵かき

など家庭では行いにくい遊

子育て支援シリーズ②

親子で集う多彩なセンター型活動

―生活に「張り」が…の声も

びを提供しています。給食  
体験ではみんな一緒に食べ

ることで会話がはずみ、離  
乳食や幼児食の不安解消に

もつながっています。

様々な取り組みを経験し  
親子教室を修了される頃に

は、何よりも頼もしい仲間  
がいると実感されるように

す。支援センターが  
お母さんたちの心の

よりどころとなつて  
いるのかな、と思っ

ています。

私たちは、お母さ  
んたちと同じ目線で

子育ての喜びも不安  
も一緒に共感したい。

そして子育てのピン  
トを伝えることで、

お母さんたちが自分  
の力で解決できるよ

うサポートし、子育  
ての自信へとつなぎ

たい。そのためにも  
子育て中のお母さん

たちが安  
心して過

ごせる場  
所と人的

環境を整  
えていき

たいと思っ  
ています。



(和泉市 和泉ひかり保育園)

# 身体使い花や生き物描く

## 「平和…」テーマに 「キッズゲルニカ」に挑戦



保育の  
あんな工夫  
こんな工夫

豊野保育園は昭和24年、大阪府寝屋川市に設立されました。地域とともに歩んで63年、「ここを育む」保育を心がけています。

平成23年度は「ここを育む」取り組みの一つとして「キッズゲルニカ」に挑戦しました。

「キッズゲルニカ」とはスペインの画家ピカソの『ゲルニカ』と同じ大きさのキャンバス(3.5m×7.8m)に子どもたちが「平和」をモチーフに絵を描く国際的なアートプロジェクトです。

年長児の卒園製作の一年ですが、全園児、全職員が参加し「平和 空は一つにつながっている」をテーマに豊野保育園の総力を挙げて取り組みました。日本の四季折々の美しさを、子どもが身体を使って表現しました。

0歳児は、保育士とともに指スタンプで桜の花びら表現しました。1歳児は、手のひらにつけた絵の具でひまわりを咲かせ、2歳児は、秋の紅葉をポンポンスポンジで、3歳児は、足の裏に絵の具をつけて太陽を描き、4歳児は、人物像と空に浮かぶ動物たちの表情を大きく描きました。地球

上のもたち・生き物・植物に思いを馳せ、それぞれの年代に応じ自分でできることにチャレンジしました。

出来上がった絵は園舎の2階からつりさげて卒園式に飾り、みなさんに見てもらいました。子どもたちも床で描いていた絵が掲げられると、その迫力に大歓声。自分たちが関わった部分を見上げ満足そうな表情がうかがえました。

「キッズゲルニカ」に取り組んだことは、卒園後も子どもたちの素敵な思い出としていつまでも残されていくことと思っています。

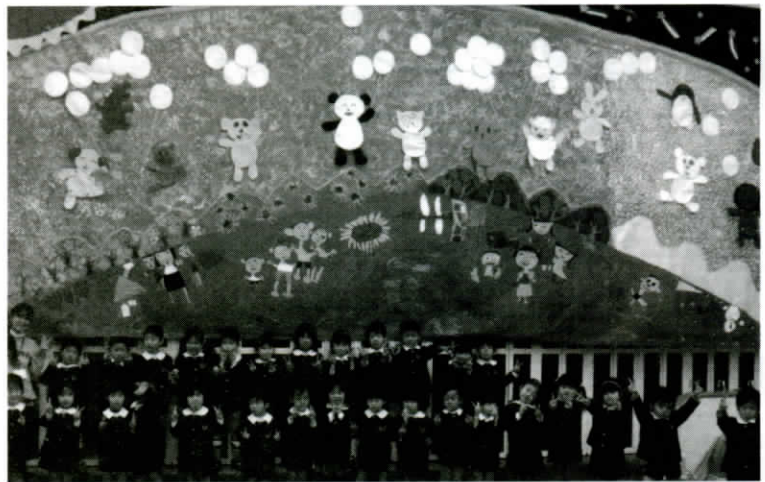
(寝屋川市 豊野保育園)

### 楽しい保育活動

ペースを守りあきらめないマラソン  
音楽バックに3〜5歳児入り混じり

寒くなりはじめる11月頃から3月まで「マラソン」に取り組んでいます。

これまで「マラソン」といえば、クラスごとに並んで呼吸を整え、黙って走るのが普通でしたが、今回は体育指導の先生から①楽しく走ることが大事②走るペースは大人が作るのではなく



子ども自身が作る③追い越してもよいが後ろから押しはいけない、と3点の助言がありました。

そこで、楽しい気分になるよう音楽をかけ、コースも5歳児から3歳児まで入り混じって走るように変えてみました。すると音楽が流れている20分間、子ども

編集後記

さわやかな若葉の季節。新入園の子どもたちにも、ここは安心して過ごせる場所と笑顔が見られるようになってきました。

新しい保護者の方と一つひとつ信頼関係を築いていくのが、苦労でもあり楽しみでもありますね。

保育士会も新年度を迎えて新たな気持ちで様々な事業に取り組んでまいります。特に研修につきましては、保育士の皆さんが、今何を悩み、何を学びたいと思っておられるかを熟慮し計画しておりますので、ぜひ、ご参加ください。

また、保護者への保育内容の情報発信が大切になってきています。この「ほほえみ」にもたくさんご寄稿いただいで、互いに保育を高めていく場のひとつにしていただけたらと思います。

今年度もよろしくお願ひいたします。

たちが生き生きと楽しそうに走る姿が見られるようになりまし。

走るペースはそれぞれで、先生と追いかけてこしながら早く走る子もいれば、ゆっくり自分の走りやすいペースを守っている子もいます。

寒がっていた子どもたちも10分ほど過ぎるころから頬を紅潮させ、マラソンが終わる時には「あつい！」と言って走り切るようになりました。

これからも「楽しく、最後まであきらめない」気持ちを大切にマラソンを続けたいと思います。

(東大阪市 本庄保育園)

